

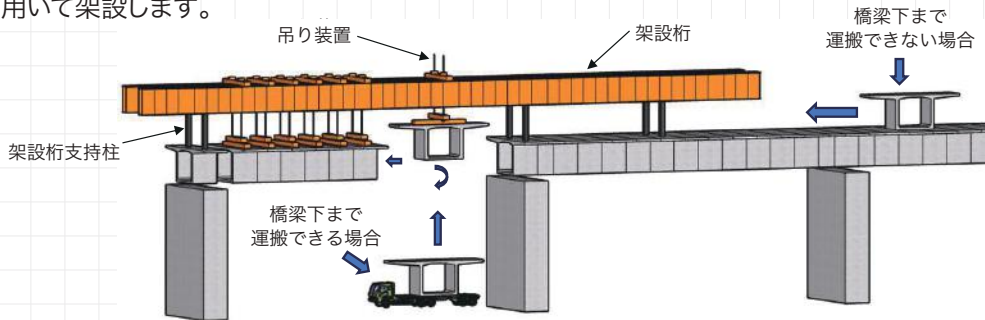
プレキャスト工法の活用(その4)

工場又は製作ヤードで製作されたPC箱桁のセグメントは、トレーラー等で架設現場まで運搬して架設します。今号はその架設工法について説明します。

●架設工法による分類

■ スパンバイスパン工法

市街地の連続高架橋などに用いられ、架設桁を用いてセグメントを吊り上げて架設位置まで垂直方向に移動し、その状態でPC鋼材により緊張し一体化する工法です。現場作業が減少し、工期が短縮できるため、閑静な住宅街であっても、騒音・振動を抑えた工事が可能となります。また、橋梁下までセグメントが運搬できない場合は既に架設された橋の橋面上を利用してセグメントを水平方向に移動した上で、架設桁を用いて架設します。



■ バランスドカンチレバー工法

山間部や海上部における長支間連続橋などに用いられ、左右対称にバランスを確保しながら張り出していく工法です。

橋梁下までセグメントが運搬できる場合には、橋梁下までトレーラー等で運搬した上で、セグメント吊り上げ装置を用いてセグメントを垂直方向に移動し架設する工法と、橋梁下までセグメントの運搬が不可能な場合には、既に架設された橋の橋面上を利用してセグメントを水平方向に移動した上で、架設桁を用いて架設する工法があります。支保工の設置が不要となるため、地形の影響を最小限にできます。

